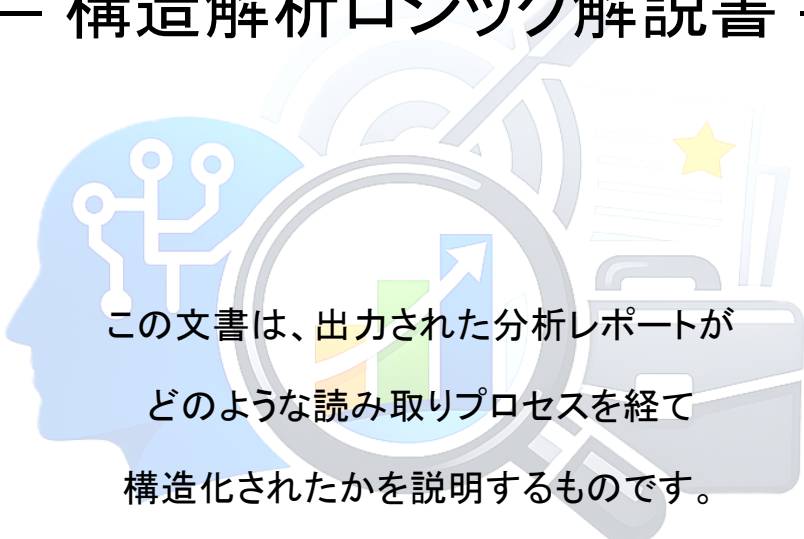


AIキャリア分析レポート — 構造解析ロジック解説書 —



この文書は、出力された分析レポートが
どのような読み取りプロセスを経て
構造化されたかを説明するものです。

評価や解釈ではなく、
「構造抽出の裏側の処理説明」です。

AIキャリア分析

① なぜ「人生の流れ」は一本の構造として扱われたのか

入力データでは職種・業界・立場が大きく変化しているにも関わらず、
“作業の種類”ではなく“関わり方の質”に連続性が見られました。

具体的に検出された連続パターン：

時期	表面的職種	構造レベルの共通性
学生バイト	現場補助	流れの末端を支える位置
SE期	システム構築	情報の流れを整える位置★
開発期	ソフト設計	構造内部の制御
営業期	仲介	人の流れの橋渡し
飲食経営	全体運営	複数要素の統合制御
現在	経験再構造化	流れそのものの抽象構造化

→ これは転職の連続ではなく

「扱う対象のスケールが拡張している流れ」と判断。

②「役割抽出」が職種ではなく“ポジション”になっている理由

職業名は変化しても、次の3要素が繰り返されていました。

検出された行動	構造的意味
調整・説明・現地対応	情報や人の流れの接続点
障害対応・改善	滞りの除去
設計・仕組み作り	流れの構造設計

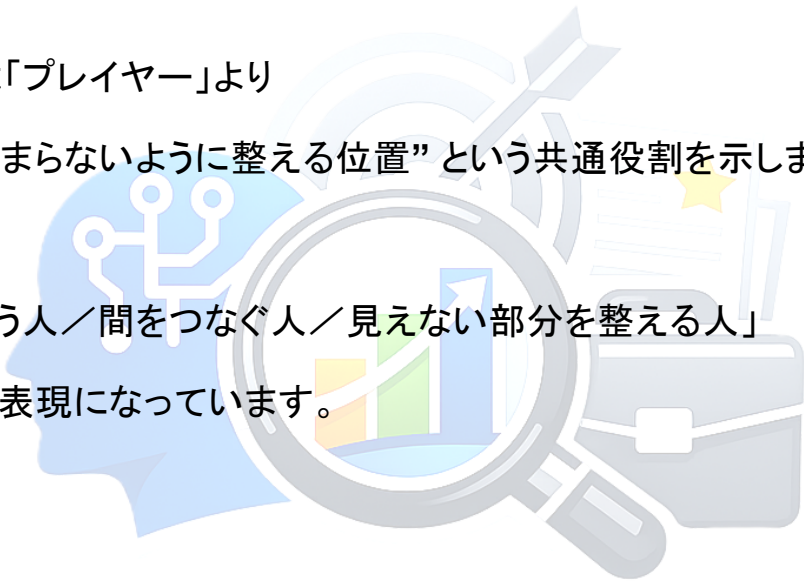
→ これらは「プレイヤー」より

“流れが止まらないように整える位置”という共通役割を示します。

そのため

「構造を扱う人／間をつなぐ人／見えない部分を整える人」

という役割表現になっています。



AIキャリア分析

③「判断軸」は価値観ではなく“違和感検出装置”から抽出

本人が「嫌だった」と書いている項目に注目すると、

- 矛盾
- 不合理
- 説明不足
- 裁量の欠如

これらは感情ではなく

構造不整合への反応と読み取れます。

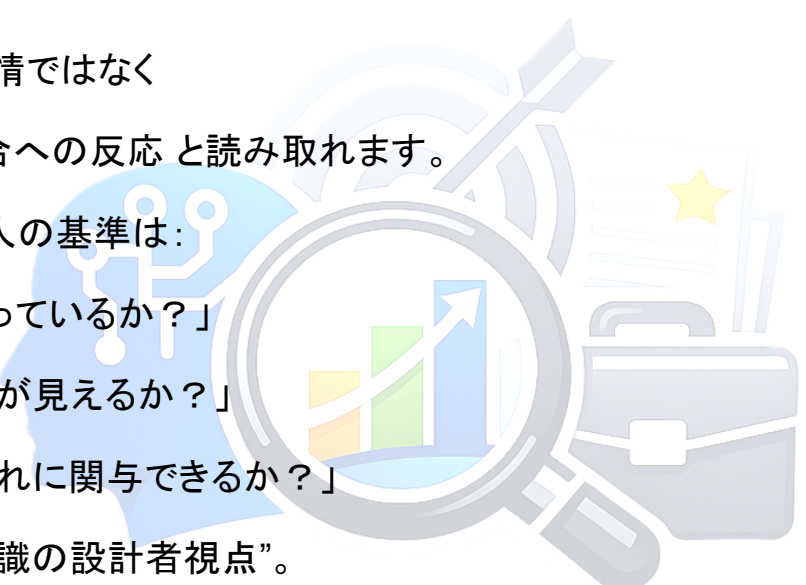
つまりこの人の基準は：

「流れが通っているか？」

「意味構造が見えるか？」

「自分が流れに関与できるか？」

という“無意識の設計者視点”。



AIキャリア分析

④「強み」をスキルではなく“自然発生特性”として出した理由

本人の記述から、

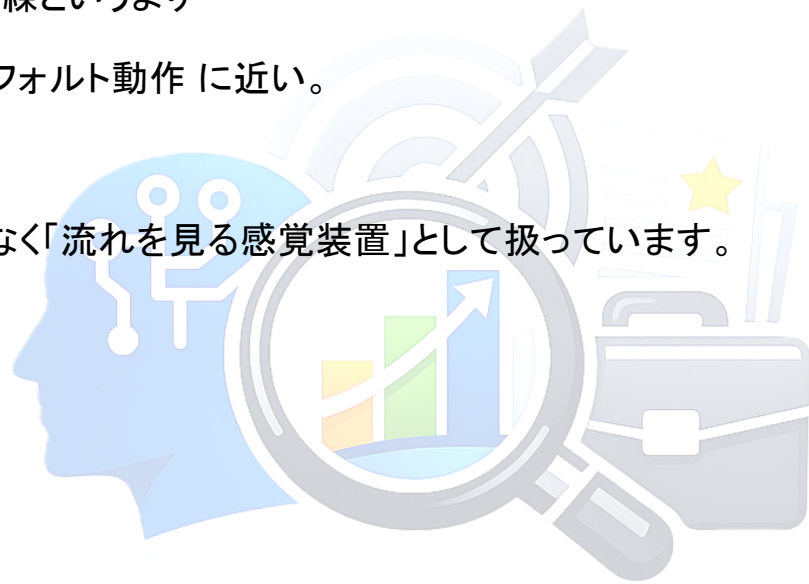
- 俯瞰する
- 深掘りする
- 違和感に敏感

これらは訓練というより

思考のデフォルト動作 に近い。

そのため

能力ではなく「流れを見る感覚装置」として扱っています。



AIキャリア分析

⑤ ズレの検出が「失敗」扱いになっていない理由

ズレが起きた場面はすべて、
“構造を扱える位置から外れた時”
に発生しています。

ズレ要因

指示通りのみ

私語が多い

不合理な対応

これは能力不足ではなく

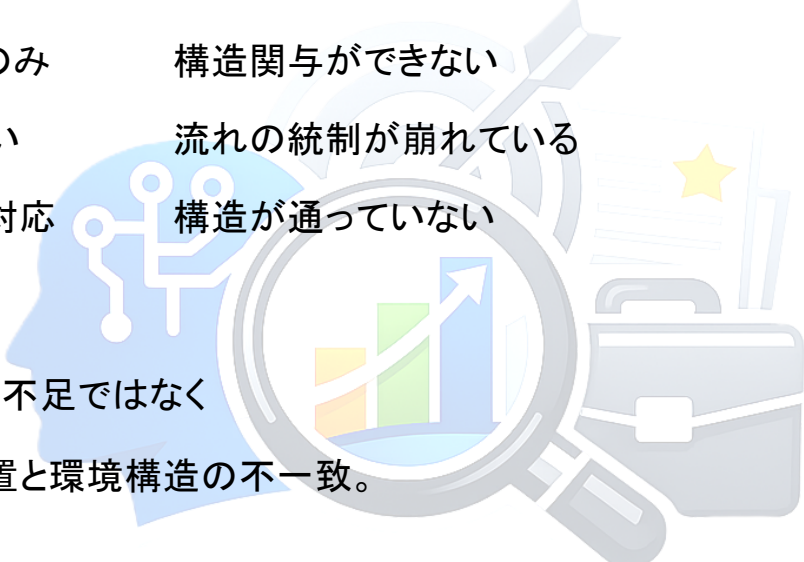
流れの位置と環境構造の不一致。

構造的解釈

構造関与ができない

流れの統制が崩れている

構造が通っていない



AIキャリア分析

⑥ 現在を「停滞」ではなく“再編フェーズ”と判断した理由

これまで

外側の構造 → 店舗の構造 → 経営構造

と対象が拡大。

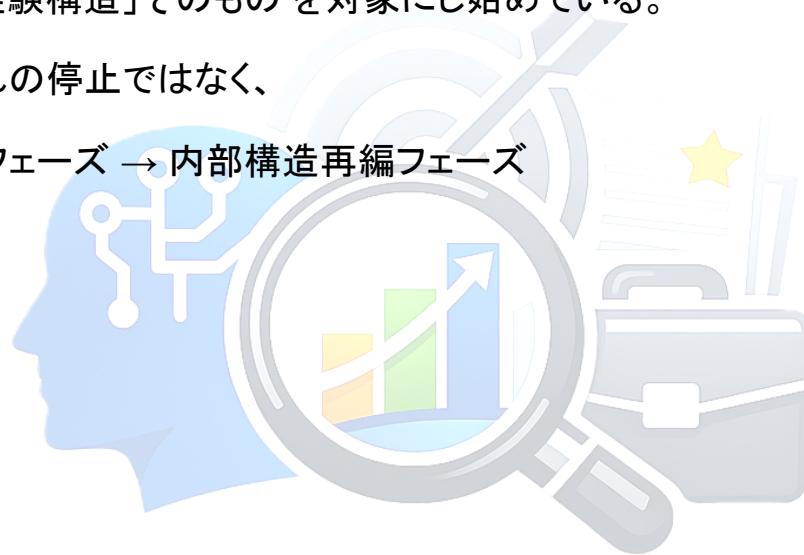
現在は

「自分の経験構造」そのもの を対象にし始めている。

これは流れの停止ではなく、

外部制御フェーズ → 内部構造再編フェーズ

への移行。



AIキャリア分析

⑦ なぜ「方向性」は提案ではなく“流れの向き”表現なのか

この分析は選択肢提示ではなく、
過去の連続性が自然に伸びるベクトル
を示しています。

この人の流れは常に
部分 → 構造 → 全体構造 → 抽象構造
へ向いているため、
同じベクトル方向のみを示唆しています。



AIキャリア分析

まとめ(この分析の本質)

このレポートは職歴分析ではありません。

「この人が一貫してどの“位置”に立ち続けてきたか」

を抽出した構造マッピングです。

扱っているのはスキルでも成功でもなく、

- 流れの中の立ち位置
- 構造への関与度
- 不一致が起きる条件

です。

つまりこれは

キャリア履歴の解釈ではなく、人生の流体力学モデルです。



AIキャリア分析